

佐教文 第 5 号
令和8年4月27日

佐賀県知事
山口 祥義 様

公益財団法人佐賀県教育文化振興財団
理事長 檜崎 秀樹

令和7年度佐賀県少年自然の家（黒髪、波戸岬）の管理運営業務
事業報告書及び利用状況等について（報告）

このことについて、別添のとおり報告します。

【担当】公益財団法人佐賀県教育文化振興財団
事務局長 山田
TEL 0955-82-5507

令和 7 年 度

佐賀県黒髪少年自然の家
管理運営業務事業報告書

公益財団法人 佐賀県教育文化振興財団

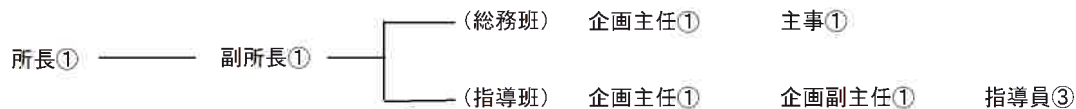
第 1 趣旨

この報告書は、佐賀県黒髪少年自然の家の管理運営に関する協定書第21条第1項第1号に定める「管理運営業務の実施状況」について記載しているものである。

第 2 管理運営体制

1 組織・人員

(1) 組織・人員配置



(2) 職員一覧

令和8年3月31日 現在

役 職	氏 名	所 掌 事 務	免 許 ・ 資 格 等
所 長		所の総括	社会教育主事、教諭免許
副所長		所長の補佐、指導班の総括	教諭免許
企画主任		総務事務の総括、庁舎管理	
主事		収入・支出事務	
企画主任		プログラムの企画、指導事務	NEALインストラクター
企画副主任		プログラムの実施、指導事務	NEALインストラクター
指導員		"	NEALコーディネーター・教諭免許
"		"	NEALリーダー・教諭免許
"		"	NEALリーダー

(3) 勤務体制

① 勤務時間

- ・ A勤務…8時30分～12時15分(翌日)(休憩時間:12時15分～13時、17時15分～18時)
- ・ B勤務…8時30分～17時15分 (休憩時間:12時15分～13時)
- ・ C勤務…13時00分～17時15分(翌日)(休憩時間:12時15分～13時、17時15分～18時)
- ・ D勤務…13時15分～22時00分 (休憩時間:17時15分～18時)

② 週休日

- ・ 1週間に付き2日

2 職員の指導育成・研修体制

日 時	研 修 名 (実 施 主 体)	受講者数等
4月1日	危機管理、個人情報保護、ハラスメントについて(職場研修)	9名
5月18日	主催事業補助(北山少年自然の家)	2名
10月18日	普通救命救急講習(杵藤地区武雄消防署)	3名
9月24日	消防訓練(消火・通報・避難)(職場研修)	9名
10月28・29・30日	伐木等業務に係る特別教育講習会(林業・木材製造業労働災害防止協会)	2名
11月24日	主催事業補助(諫早青少年自然の家)	1名
12月12・13・14日	自然体験活動指導者養成研修	1名
2月13日	「こども性暴力防止法」に関する事業者向け全国説明会	9名
2月5日	3施設合同研修会	4名
2月17日	施設視察「ヤマガラビレッジ」(職場研修)	9名
3月18日	消防訓練(雨天のため通報のみ)(職場研修)	9名

3 地元との連携

時 期	連 携 等 内 容
通 年	黒髪の浪漫まつり実行委員会・事務局会(委員:所長、事務局長:山内公民館長)
4月	黒髪山山開き参加(黒髪の浪漫まつり実行委員会主催)
11月	黒髪山陶芸作家村(7社) 窯祭りと連携し、黒髪山系山歩き教室開催(講師:黒髪植物の会代表)
3月	黒髪少年自然の家周辺及びウォークラリーコース清掃活動(黒髪山を守る会:黒髪へんろ道運営協議会協賛)

第 3 施設の運営に関する業務

1 休所日と施設点検日

(1) 休所日

休 所 日	期 間	理 由
令和7年12月29日～ 令和8年1月3日	6日間	年末年始休暇のため
令和8年2月17日～ 令和8年2月18日	2日間	職員研修のため

(2) 施設点検日

① 自家用電気工作物点検

点検月日	4月8日	6月6日	8月5日	10月7日	11月17日	12月2日	2月4日
異常の有 無	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし

② ボイラー点検・整備

○ 給湯用ボイラー(管理棟内の浴室)

- ・ 点検・整備日 令和7年11月27日28日
- ・ 点検結果 安全弁分解整備済

③ 消防用設備等点検

- ・ 点検日 令和7年9月24日 令和8年3月18日
- ・ 点検結果 異常なし 異常なし

2 受入れ事業

(1) 利用実績

延べ利用者数	延べ宿泊者数	左のうち免除者数	実利用者数	実利用団体数	利用拒否件数
人 17,555	人 6,083	人 101	人 11,472	団体 522	件 0

(2) 県内学校の優先受付

受 付 期 間	受 付 件 数	受付総人数
令和7年4月1日～ 令和7年5月31日	7件	313人

(3) 活動プログラムの内容及び団体等への指導・支援

提示した活動プログラム内容で職員が指導したプログラム

① 野外活動

【内容】登山(支援)、わんぱく大冒険(支援)、オリエンテーリング(支援)、ウォークラリー(支援)、ハイキング(支援)
自然(植物・植林・樹木・野鳥・岩石・地層・水生生物・昆虫)観察(支援)

【支援】登山、わんぱく大冒険でのチェックポイントの助言及び危険回避の方法等の指導・支援

② 館内活動

【内容】講話「黒髪の植物・大蛇退治伝説・黒髪山の伝説」(支援)、レクリエーション(支援)

【支援】黒髪の植物・大蛇退治伝説・黒髪山の伝説等の講話、レクリエーションの進め方・注意点についての指導・支援

③ 交流・交歓

【内容】キャンプファイヤー(支援)、キャンドルの集い(支援)

【支援】衣装の貸し出しや使用方法の支援、適切なキャンドルの使用方法や薪組みの配置についての指導

④ アウトドア

【内容】野外炊飯

【支援】薪割りの方法、火の燃やし方、包丁の扱い、調理中の安全・衛生面についての指導

⑤ ニュースポーツ等

【内容】モルック、キャッチ・ザ・スティック、スカッドボーイ、バグー(支援)、バレーボール、バドミントン、綱引き、玉入れ

【支援】場の設定とルールの説明、競技方法の支援

⑥ クラフト活動

【内容】どんぐり人形、ぶんぶんゴマ、壁掛け、竹とんぼ、ペンダント、鳥笛、キーホルダー（支援）

【支援】クラフトで使用する材料・道具の準備、作り方の手順や説明、安全面・技術面の指導・支援

⑦ 出前講座

【内容】クラフト制作、レクリエーション

【支援】団体等からの要請により、クラフト活動・レクリエーション・野外炊飯等の方法について指導・支援

指導・支援については、事後のアンケートで「分かりやすい説明と、優しく遊び方を手とり足とり教えていただき子ども達もとても喜んでいました」「職員の皆様すべて親切でいいので、くわしく指導して頂いた」等の意見があった。豊かな自然環境での活動における利用者の安全安心な活動確保のため、コース内の点検を強化するとともに、指導者に対し情報提供を十分に行い、活動内容に沿った指導・支援の充実を図っていく。

(5) フィールドの開発・整備

月・日	4月2, 7日	5月20, 26日	6月21日	7月30日	8月22, 23日	9月17, 25日
点検結果	竹橋の竹の割れ	丸太ステップ腐食	特になし	丸太ステップ腐食	うりぼう丸太の破損	特になし
措置月日	交換5/1	撤去5/26	-	補修7/30	撤去9/8	-
月・日	10月15日	11月12日	12月12日	1月4日	2月13日	3月28日
点検結果	うり坊コース雑草が多い	わんぱく竹橋ロープ破損、看板破損	プレイホールバスケットリング紐が切れている	わんぱくコース内に枯れた木が落ちている	だんだん竹橋破損	うりぼう土台の木の腐食
措置月日	草払い10/21	看板設置・ロープ補強11/12	修繕12/13	撤去1/4	整備3/9	交換4/6

3 提案型事業

事業名			事業区分	対象者	募集人数	期 日	参加人数	効 果	ボランティアの活用
提案型事業	親子自然体験	ワイルドキッズ (1期、2期)	ウ	小学生 中学生	60名	9/6～7	51名	黒髪の子の中で同年代の者同士が集団宿泊等の共同生活や登山、わんぱく大冒険、クラフト等の自然体験活動を通して、友達作り、我慢すること、協力すること、助け合うことの大切さや自然の中で自らが判断し行動すること重要性を学ぶことにより、判断力や創造力と豊かな情操、人間関係能力等の社会性を身に付け「生きる力」を育むことができた。	2名
			60名		2/7～8	32名	2名		
		アドベンチャー教室 (1期、2期)	ウ		60名	5/10～11	36名		1名
			60名		3/14～15	54名	3名		
		ネイチャースクール (1期、2期)	ウ		60名	9/20～21	20名		1名
					60名	12/6～7	19名		1名
	親子自然体験	春満喫！in 黒髪	ア	小学生とその家族	20家族	4/5	42名	黒髪の子の中で親子が、他の家族と一緒に季節に合わせた自然体験活動を行うことで四季の変化を堪能し、自然の恵みに感謝するとともに、これらの活動を通して、親子の絆を強めることと家族間の交流をはかることに寄与した。	
		農業プロジェクト①	ア		20家族	5/31～6/1	35名		
		親子ふれあいキャンプ	ア		20家族	10/25～26	35名		
		空飛ぶバルーン体験	ア		25家族	10/4～5	55名		
		農業プロジェクト②	ア		20家族	11/9	31名		
		年末フェスタIn黒髪	ア		25家族	12/20～21	45名	停電のため日帰りでの実施プログラムとなったが、地域とのつながりが薄れ、年々忘れ去られていく年末の恒例行事である餅つきをすることにより、日本の伝統文化に触れるとともに、1年を振り返り新しい年への計画づくりの機会を提供した。	
		親子チャレンジ	ア		25家族	1/24～25	34名	親子が野外でビザ作り、親子レクリエーションなどを通して、スキンシップを深め、家族間の交流が活発になるよう支援した。	
		親子わくわく楽習	ア		幼児とその家族	60名	3/1	12名	また、親に対しては子育てに関する講演会、子どもに対してはレクリエーションを分かれて行い、それぞれ同世代間の交流ができるよう支援した。
	(施設利用指導者研修事業) 黒髪セミナー		イ	教職員 引率者	各30名	5/16(0名) 8/22(7名)	7名	当施設を利用する学校や団体の指導者に対して、当施設の特色の説明や各種プログラムの体験などの事前研修を行い、当日の活動が安全かつ効率的に実施できるように援助することができた。	
	(施設ボランティア養成事業) 黒髪ボランティア養成セミナー		イ	高校生以上	20名	7/5～6	23名	少年自然の家での活動に必要な知識や技術などの研修を通して、実践的な指導力を習得したワーカーの養成をすることができた。	

地域貢献	黒髪山系窯元めぐりと紅葉狩り	—	成人	各20名	11/22・23	27名	自然豊かで、四季の移り変わる黒髪山系の魅力を生かし、安全で楽しい山歩きを行い、ストレスの解消と健康増進を図った。	—
	施設開放事業 親子でいっしょ！ くろかみホリデー ・くろかみの秋を見つけにトレッキングしよう ・めざせボーイスカウトポケモントレーナー ・くろかみキッズデー	ア	幼保小(低学年)児童とその保護者	— — —	11/16(21) 11/30(62) 2/1(17)	100名	11月から2月にかけて、黒髪少年自然の家の施設や遊具等を、幼児と低学年児童及びその家族に開放し、黒髪山系の豊かな自然の中で、親子が一緒に遊ぶことや、子ども達同士の遊びの交流、家族同士の交流などを通して、子どもたちの生きる力を育んだ。	— — —
	佐賀県3施設ラリー 子ども体験フェス	ア	小学生とその家族	25家族	10/13	42名	3施設の特徴を生かし、親子の自然体験を通して、子どもたちの健やかな成長を育んだ。	4名
共同共催	防災キャンプ	ア	小5・6年生と中学生	20名	6/14～15	12名	頻発する災害の話聞き、自然の怖さを知るとともに、防災について体験をもとに理解を深めた。	—
	くろかみ出前講座	ア	—	—	随時	26団体 3,040名	黒髪少年自然の家のプログラムを小学校、公民館、子どもクラブ等において実施し、多くの人に体験してもらうとともに、少年自然の家の利用を働きかけることができた。	—
参加者総計 3,752名								

※事業区分 (ア)青少年の健全育成に係る体験活動、研修等 (イ)青少年の体験活動を支援する指導者の育成 (ウ)青少年が抱える課題の未然防止に資する体験活動

4 施設事業にかかる広報・PR等

(1) 所報・活動プログラム等の作成

- ・ 所 報 … 2,500部
- ・ 野外活動プログラム … 2,000部
- ・ 周辺スポーツ施設ガイド … 2,000部

(2) 県内利用者、冬季利用者の増加のための誘客活動の実施状況(期日、方法等)

期 日	方 法 等
5・6・7月	県内の保育園・幼稚園・こども園及び市町教育委員会を訪問し利用をお願いするとともに、武雄市内の青少年育成町民会議などの団体や道の駅山内など公共の施設へ所報、自然の家周辺スポーツ施設(グラウンド等)ガイドの配布
1月・2月	県西部の保育園・幼稚園・こども園及び町内の小学校を訪問し、今年度の利用お礼と次年度のご利用案内
通 年	東部、西部(北部支所を含む)教育事務所及び西部管内の小学校あてに提案型事業(イベント、出前講座)の参加を要請
	Web広報(Instagram、フェイスブック)

第 4 施設の維持及び管理に関する業務

1 委託業務

庁舎清掃業務、庁舎警備業務、電気工作物点検業務、消防設備点検業務、食事提供業務等の状況
別紙「令和7年度 黒髪少年自然の家委託業務実績一覧」のとおり

2 当該年度に指定管理経費で購入した備品

分 類	品 名	規 格	数 量	金 額	購 入 年 月 日
13-62-4	ガス自動炊飯器	フジマック FRC15NB-T	2	1,003,200円	令和8年3月24日

第 5 令和7年度の料金体系

【黒髪少年自然の家 料金一覧】

(1) 宿泊使用料 寝具代(入所時に現金か振込で事務所にて清算。)

※振込手数料は、振込者にて負担

区 分	本館	キャンプ場
①3歳未満の未就学児	無料	
②3歳以上中学生以下	無料	
③高校生、学生及び23歳未満の青年(企業研修を除く)	300円	150円
④学校行事(教育課程の一環)として児童・生徒を引率する学校の 教員 ※部活動も含む	300円	150円
⑤上記以外	700円	350円
寝具代(シーツ代を含む)	本館	キャンプ場
3歳以上から料金が発生 連泊の場合、1泊ごとに料金を徴収する。(2日に1回シーツ交換)	600円	
汚損時の寝具等のクリーニング料金	敷布団…3,000円 毛布…1,000円 シーツ200円 こたつ布団…1,500円 枕…800円 タオルケット…500円	

※準要・要保護・就学奨励金受給者は、学校長の免除申請により免除できる。

※身体障がい者等の手帳や(介護一人も含む)、特定疾患(指定難病)医療費受給者証の交付を受けている者は、手帳もしくは受給者証の提示と申請によって免除できる。

◎施設使用料(日帰り) 注)使用料は入所時に事務室にて現金で支払う。

宿泊せずに施設を利用する場合、利用する施設1ヶ所あたり1時間200円を必要とする。また、冷暖房を使用する場合は、別途1時間100円を必要とする。

(2) 食費(消費税込み1人分)

食 堂 食	朝 食	昼 食	夕 食
幼児	500円	650円	800円
小学生	600円	750円	900円
中学生～大人	700円	850円	1000円
アスリート食	850円	1000円	1150円
弁当	普通盛600円 大盛700円		
野外炊飯等(薪代込み)	※バン食600円 ※野外炊飯(カレー他)800円(昼夜とも) ※BBQの場合、1人前1750円(炭持参) ※食材・BBQコンロ含む ※BBQコンロのみ1台1000円(貸し出し料)		
オードブル(要予約)	4～5人前 4500円/5500円		

(3) 活動プログラムにかかわる料金

プログラム	料金
キャンプファイヤー・キャンドルのつどい	各3000円
クラフト(一人1種類)	(宿泊)50円、(日帰り)100円

(4) その他

ゴミ袋(1枚)	可燃150円、ペットボトル・缶・ビン50円
アメニティ	タオル150円、歯ブラシ50円・カミソリ50円

令和7年度 黒髪少年自然の家委託業務実績一覧

	委託業務名	内容	業者名	契約期間	実績額
1	庁舎機械警備業務委託	・機械警備	株式会社 黒髪少年自然の家	令和7年度	1,234,567円
2	庁舎清掃業務委託	・日常清掃(作業員常駐、年262日/人) ・管理棟 ワックス 年4回 ・プレイホール " 年1回 ・工作室 " 年2回 ・小・中研修室 " 年1回 ・サッシ・網戸清掃 年1回 ・エアコンフィルター清掃 年2回 ・厨房害虫駆除 年1回			
3	消防用設備点検業務委託	○ 外観機能点検 年1回 自動火災報知設備：一式 漏電火災警報器：一式 非常警報設備：一式 火災報知設備：一式 ○ 総合点検 年1回			
4	自家用電気工作物保安業務委託	○ 通常点検 年6回 ○ 定期点検 年1回			
5	一般廃棄物特別収集業務委託	○ 可燃物 週1回 ○ 不燃資源物 週1回			
6	寝具類洗濯業務	○ シーツ、毛布、タオルケット コタツ布団、ペットパット			
7	食堂管理運営業務	○ 食事の提供			
8	貯水槽清掃委託	○ 受水槽(15t×1基) 清掃・消毒・点検 年1回 ○ 高架水槽(4t×2基) 清掃・消毒・点検 年1回			
9	ボイラー保守点検業務委託	○ 給湯用ボイラー保守点検 年1回			
10	パソコン保守業務委託	○ サーバーおよびパソコンの運用支援			
11	ホームページの保守業務	○ ホームページのシステム・プラグインの更新作業 ○ データの保全 ○ アクセス解析の報告等			
12	建築物等定期点検	○ 定期点検 3年に1回 ※令和7年度なし。次回は令和8年度実施。			
13	グリーストラップ汚泥処理清掃	○ グリーストラップ汚泥処理清掃 年2回			

令和7年度 佐賀県黒髪少年自然の家

(3月分利用統計)

令和8年3月31日現在

1. 利用状況

	延 利 用 者 数	延 宿 泊 者 数	実 利 用 者 数
男	9,444	3,605	5,839
女	8,111	2,478	5,633
今年度計	17,555	6,083	11,472
開所以来合計	1,503,467	808,389	694,207

2. 類型別利用者数及び団体数 (%)

	園児	小学	中学	高校	大学	特別支援学校	少年団体	青年団体	女性団体	家族	企業	指導者	成人	高齢者	出前	合計
実数	826	1,616	502	474	199	0	3,305	96	0	920	253	57	184	0	3,040	11,472
	7.2	11.1	1.4	4.1	1.7	0.0	28.8	0.8	0.0	8.0	2.2	0.5	1.6	0.0	26.5	100.0
団体数	41	92	17	11	10	0	161	5	0	77	13	4	65	0	26	522
	7.9	17.6	3.3	2.1	1.9	0.0	30.8	1.0	0.0	14.8	2.5	0.8	12.5	0.0	5.0	100.0
県内団体数	41	89	15	4	6	0	98	5	0	68	11	4	57	0	25	423

3. 宿泊日数別実利用者及び団体数 (%)

	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日	6泊以上	合計
実数	6013	4732	434	35	136	0	122	11472
	52.4	41.2	3.8	0.3	1.2	0.0	1.1	100.0
団体数	360	144	11	1	4	0	2	522
	69.0	27.6	2.1	0.2	0.8	0.0	0.4	100.0
県内団体数	326	91	4	0	2	0	0	423

4. 規模別利用団体数 (%)

	50人未満	50～99人	100～149人	150～199人	200～249人	250人以上	合 計
団体数	472	33	9	5	1	2	522
	90.4	6.3	1.7	1.0	0.2	0.4	100.0
前年度 まで	8,749	3,606	929	412	490	19	14,205
	61.6	25.4	6.5	2.9	3.4	0.1	100.0
合計	9,221	3,639	938	417	491	21	14,727
	62.6	24.7	6.4	2.8	3.3	0.1	100.0

5. 月利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	28	28	26	31	357
利用状況	26	30	22	23	30	27	27	22	13	11	13	19	263
比 率	86.7	96.8	73.3	74.2	96.8	90.0	87.1	73.3	46.4	39.3	50.0	61.3	73.7

6. 延利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
	1,681	2,819	918	1,707	2,706	1,548	1,442	2,545	295	300	323	1,271	17,555

7. 延宿泊者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
	990	953	251	542	1,085	374	415	511	92	103	93	674	6,083

8. 実利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
	691	1,901	632	1,165	1,621	1,174	1,027	2,034	203	197	230	597	11,472

9. 類型別実利用者数（団体数）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
園 児	8 2	148 5	24 6	267 14	31 1	116 4	24 1	139 5	0 0	0 0	54 1	15 2	826 41
小 学	14 7	107 23	136 5	14 7	17 8	200 15	530 18	298 9	0 0	0 0	0 0	0 0	1,616 92
中 学	137 3	50 2	58 2	1 1	56 2	174 5	1 1	0 0	0 0	0 0	25 1	0 0	502 17
高 校	187 1	33 1	85 1	27 2	35 1	0 0	17 1	21 2	0 0	0 0	0 0	69 2	474 11
大 学	59 2	0 0	30 2	0 0	34 2	26 1	0 0	0 0	0 0	0 0	14 2	36 1	199 10
特別支援学校等	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
少年団体	154 10	478 30	66 10	632 24	874 27	225 11	65 7	222 14	140 9	52 3	67 3	330 13	3,305 161
青年団体	0 0	0 0	38 1	23 1	0 0	2 2	0 0	33 1	0 0	0 0	0 0	0 0	96 5
女性団体	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
家 族	51 5	52 4	9 4	25 8	66 12	14 2	156 9	288 21	51 3	38 2	33 5	137 2	920 77
企 業	74 2	2 1	0 0	0 0	0 0	22 3	150 8	5 1	0 0	0 0	0 0	0 0	253 13
指 導 者	0 0	7 1	0 0	43 2	7 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	57 4
成 人	7 4	7 4	11 9	9 5	7 4	2 1	6 3	94 16	12 6	6 3	13 5	10 5	181 65
高 齢 者	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
出 前	0 0	717 2	175 1	124 2	494 8	393 3	78 2	934 5	0 0	101 2	21 1	0 0	3,040 26
合 計	691 36	1,901 73	632 41	1,165 66	1,621 66	1,174 47	1,027 48	2,034 74	203 18	197 10	230 18	597 25	11,472 522

10. 宿泊日数別実利用者数（団体数）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
1 日 帰 り	136 27	900 38	340 32	536 48	612 36	842 34	559 35	1,523 59	105 14	116 8	128 14	216 15	6,013 360
1 泊 2 日	297 7	923 32	284 8	629 18	866 25	306 12	468 13	478 14	98 4	34 1	102 4	247 6	4,732 141
2 泊 3 日	187 1	78 3	8 1	0 0	67 3	0 0	0 0	0 0	0 0	47 1	0 0	47 2	434 11
3 泊 4 日	0 0	0 0	0 0	0 0	35 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	35 1
4 泊 5 日	0 0	0 0	0 0	0 0	11 1	26 1	0 0	33 1	0 0	0 0	0 0	36 1	136 4
5 泊 6 日	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
6 日以上	71 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	51 1	122 2
合 計	691 36	1,901 73	632 41	1,165 66	1,621 66	1,174 47	1,027 48	2,034 74	203 18	197 10	230 18	597 25	11,472 522

11. 規模別利用団体

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
50人未満	33	68	38	60	58	41	42	68	18	9	17	20	472
50～99人	1	4	1	6	6	3	4	2	0	1	1	4	33
100～149人	1	0	1	0	1	1	2	2	0	0	0	1	9
150～199人	1	0	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	5
200～249人	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
250人以上	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
合 計	36	73	41	66	66	47	48	74	18	10	18	25	522

12. 年度別利用状況

	延 利 用 者 数	延 宿 泊 者 数	実 利 用 者 数	団 体 数
昭和50年度	17,286	9,480	7,808	104
昭和51年度	30,281	16,743	12,674	147
昭和52年度	35,952	20,152	15,789	166
昭和53年度	36,084	20,361	15,792	185
昭和54年度	37,956	20,724	16,284	194
昭和55年度	40,119	22,714	17,029	197
昭和56年度	42,450	24,221	18,228	239
昭和57年度	44,933	25,418	19,528	236
昭和58年度	47,775	27,872	19,825	233
昭和59年度	48,547	29,228	19,334	225
昭和60年度	46,481	27,338	19,898	224
昭和61年度	47,802	27,684	20,728	236
昭和62年度	35,872	20,860	15,012	186
昭和63年度	31,285	17,981	13,304	174
平成1年度	33,159	18,776	14,390	185
平成2年度	32,866	18,934	13,931	199
平成3年度	29,512	16,477	13,222	180
平成4年度	32,992	18,531	14,389	210
平成5年度	33,378	18,513	14,765	243
平成6年度	25,857	14,420	11,435	186
平成7年度	32,227	17,579	14,648	225
平成8年度	25,808	13,699	12,077	195
平成9年度	27,825	14,858	12,942	182
平成10年度	26,982	14,972	12,010	187
平成11年度	23,294	12,643	10,651	177
平成12年度	25,786	13,993	11,793	211
平成13年度	29,053	15,533	13,520	237
平成14年度	30,914	17,263	13,651	249
平成15年度	28,757	16,505	12,252	264
平成16年度	28,150	15,614	12,536	280
平成17年度	25,152	13,844	11,308	254
平成18年度	26,838	14,900	11,938	290
平成19年度	25,954	14,042	11,912	292
平成20年度	27,649	14,931	12,718	329
平成21年度	26,564	14,665	11,899	327
平成22年度	27,418	14,998	12,420	305
平成23年度	26,301	14,397	11,904	286
平成24年度	27,007	14,631	12,376	288
平成25年度	28,199	14,755	13,444	433
平成26年度	27,383	13,598	13,785	406
平成27年度	26,606	13,018	13,588	396
平成28年度	25,153	12,028	13,125	416
平成29年度	25,237	11,766	13,532	447
平成30年度	24,759	11,417	13,265	464
令和元年度	21,201	9,957	11,244	417
令和2年度	9,614	3,027	6,584	382
令和3年度	16,980	6,076	10,904	510
令和4年度	18,796	6,374	12,422	623
令和5年度	19,545	7,194	12,351	668
令和6年度	20,173	7,602	12,571	516
令和7年度	17,555	6,083	11,472	522
合計	1,503,467	808,389	694,207	14,727

13. キャンセルの状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
団体数 (宿泊)	3	2	0	6	9	3	4	8	5	2	2	7	51
実利用者数 (宿泊)	161	63	0	277	364	144	146	81	117	80	46	252	1,731
団体数 (日帰り)	0	1	0	0	2	1	2	0	0	0	0	2	8
実利用者数 (日帰り)	0	25	0	0	45	15	28	0	0	0	0	40	153
利用料金の減収額	112,700	44,900	0	89,000	236,400	143,400	8,500	56,700	66,400	56,000	32,200	2,116,800	2,963,000

※利用料金（寝具代除く）の減収額については、概算でご記入ください。（宿泊：実利用者数×泊数×利用料金）（日帰り：利用料金×時間）

佐教文 第 11-1 号

令和 8 年 6 月 2 5 日

佐賀県政策部

政策企画監 納富大介 様

公益財団法人佐賀県教育文化振興財団

理事長 檜崎 秀樹

令和 7 年度佐賀県黒髪少年自然の家の管理運営に係る
事業報告について(提出)

令和 7 年 2 月 2 8 日付けで締結した佐賀県黒髪少年自然の家の管理運営に関する協
定書第 2 1 条の規定により、別添のとおり提出します。

黒髪少年自然の家

	項目	R 7 年度実績
収入	委託料	69,805,000
	利用料収入	4,890,300
	その他の事業収入	345,850
	クラフト教材費	219,850
	キャンドル、キャンプファイヤー代	126,000
	雑収入(自販機・公衆電話等)	114,147
	受取利息	60,805
	計	75,216,102

支出	人件費	報酬手当	0
		給与手当	33,336,363
		福利厚生費(健診料含む)	5,336,233
		労働保険	
		計	38,672,596
	退職給与引当金		1,295,578
	施設管理受託事業	外部委託費	8,268,261
		修繕費	4,469,431
		その他受託事業費	13,067,311
	事業費	利用団体支援事業	566,500
		広報事業	326,714
	計		26,698,217
	消費税等		4,146,669
	合計		70,813,060

(一般会計)
(佐賀県委託金収入)

R7年度 事業収入

月日	黒髪	波戸岬	調査研究事業		委託金計	合 計
5月30日	18,847,352					
8月19日	18,847,350					
11月18日	18,847,350					
2月19日	13,262,948					
	69,805,000		0			

(一般会計)**R7年度 利用料収入**

黒髪少年自然の家		黒髪 計	波戸岬少年自然の家		波戸岬 計	利用料 収入合計
月日	利用料収益		月日	利用料収益		
4月	858,500	858,500	4月			
5月	697,500	697,500	5月			
6月	205,200	205,200	6月			
7月	467,600	467,600	7月			
8月	909,250	909,250	8月			
9月	289,300	289,300	9月			
10月	284,550	284,550	10月			
11月	396,000	396,000	11月			
12月	73,300	73,300	12月			
1月	93,600	93,600	1月			
2月	46,900	46,900	2月			
3月	568,600	568,600	3月			
計	4,890,300	4,890,300				

(一般会計) R7年度 事業収入 (提案型)

[illegible]

(一般会計) R7年度 事業収入 (提案型)

[illegible]

(一般会計)

令和7年度

その他の事業収益

黒髪少年自然の家				黒髪計	波戸岬少年自然の家						波戸岬計
区 分	キャンドル代	キャンプ	クラフト 教材費		食事代 弁当代	区 分	キャンドル代	キャンプ	クラフト 教材費	カッター活 動	
4月	0	0	0		4月						
5月	21,000	3,000	15,550		5月						
6月	6,000	6,000	15,500		6月						
7月	9,000	12,000	25,050		7月						
8月	6,000	9,000	61,000		8月						
9月	6,000	3,000	37,250		9月						
10月	12,000	12,000	8,250		10月						
11月	15,000	3,000	30,600		11月						
12月	0	3,000	15,050		12月						
1月	0	0	2,200		1月						
2月	0	0	5,100		2月						
3月	0	0	4,300		3月						
計	75,000	51,000	219,850		計						
	345,850										

その他の事業収入

1 収入内訳

項 目		金額 (単位：千円)	計画額				実績額
			積算基礎		金額 (単位：円)	金額 (単位：円)	金額 (単位：円)
1	県委託料	69,805	69,805,000	円 × 1 式	69,805,000		69,805,000
2	利用料金	5,094					
	〈施設利用料〉	5,094					
	(1) 中学生以下		600	円 × 4,200 人	2,520,000		
	(2) 高校生・大学生 (学校行事利用の引率者含む)		900	円 × 1,200 人	1,080,000		
	(3) 上記に掲げる以外の者		1,300	円 × 1,100 人	1,430,000		
	(4) 日帰り		200	円 × 200 時間	40,000		
	(5) テント (高校生・大学生等)		150	円 × 20 人	3,000		
	(6) テント (一般)		350	円 × 60 人	21,000		
	小 計				5,094,000		4,890,300
3	その他	379					
	(1) クラフト等事業収入 ・クラフト代	227	50	円 × 980 人	49,000		345,850
	・キャンドルのつどい		100	円 × 1,000 人	100,000		
	・キャンプファイヤー		3,000	円 × 12 団体	36,000		
			3,000	円 × 14 団体	42,000		
	(2) 受取利息	0			0		60,805
	(3) その他	152					114,147
	・公衆電話料		30	円 × 12 月	360		
	・自動販売機		11,000	円 × 12 月	132,000		
	・ゴミ袋		124	円 × 160 枚	19,840		
	・コピー代		10	円 × 50 枚	500		
	小 計				379,700		520,802
合 計		75,278			75,278,700		75,216,102

令和7年度 黒髪少年自然の家委託料受入計画

	委託料計	1/4半期	2/4半期	3/4半期	4/4半期
人 件 費	66,897,000	18,062,190	18,062,190	18,062,190	12,710,430
施設管理・事業費	2,908,000	785,162	785,160	785,160	552,518
合 計	69,805,000	18,847,352	18,847,350	18,847,350	13,262,948
う ち 消 費 税	6,345,909	1,713,396	1,713,395	1,713,395	1,205,723

2 施設維持管理経費内訳			計画額			実績額	
項 目		金額 (単位：千円)	積 算 基 礎		金額 (単位：円)	金額 (単位：円)	
1	賃金	260					
	臨時雇賃金		7,410	円 × 35 日	259,350		
	小 計				259,350	7,410	
2	会議費	11					
	来客用茶菓代		11,000	円 × 1 式	11,000		
					11,000	0	
3	旅費交通費	90					
	(1) 県外出張旅費		20,000	円 × 1 式	20,000		
	(2) 県内出張旅費		60,000	円 × 1 式	60,000		
	(3) 職員研修講師旅費		10,000	円 × 1 式	10,000		
	小 計				90,000	182,154	
4	通信運搬費	288					
	切手類購入費		40,000	円 × 1 式	40,000		
	電話料		160,000	円 × 1 式	160,000		
	インターネットプロバイダー		58,000	円 × 1 式	58,000		
	メール便		30,000	円 × 1 式	30,000		
	小 計				288,000	241,935	
5	消耗品費	3,500					
	消耗品他購入費		3,500,000	円 × 1 式	3,500,000		
					3,500,000	4,305,227	
6	印刷製本費	170					
	コピー代		120,000	円 × 1 式	120,000		
	封筒印刷		50,000	円 × 1 式	50,000		
	小 計				170,000	147,804	
7	修繕費	4,300					
	建物修繕費		4,000,000	円 × 1 式	4,000,000		
	自動車修繕費		150,000	円 × 1 式	150,000		
	備品等修繕費		150,000	円 × 1 式	150,000		
	小 計				4,300,000	4,469,431	
8	燃料費	925					
	ガソリン		176.0	円 × 600 リットル	105,600		
	灯油		114.4	円 × 800 リットル	91,520		
	重油		113.3	円 × 6,200 リットル	702,460		
	混合油		220.0	円 × 115 リットル	25,300		
	小 計				924,880	710,791	
9	水道光熱費	4,810					
	電気料		3,500,000	円 × 1.00 式	3,500,000		
	水道料		800,000	円 × 1.00 式	800,000		
	下水道料		480,000	円 × 1.00 式	480,000		
	ガス		30,000	円 × 1.00 式	30,000		
	小 計				4,810,000	3,164,776	
10	使用料及び賃借料	2,969					
	複合機借上料		150,000	円 × 1 式	150,000		
	テレビ受信料（ケーブル・NHK）		50,000	円 × 1 式	50,000		
	体育施設使用料		10,000	円 × 1 式	10,000		
	経理ソフト使用料		240,000	円 × 1 式	240,000		
	寝具使用料		2,519,000	円 × 1 式	2,519,000		
	小 計				2,969,000	3,664,763	

項 目		金額 (単位：千円)	積 算 基 礎		金額 (単位：円)	金額 (単位：円)
11	保険料	154				
	労災保険		259,350 円 × 0.008 式		2,075	
	自動車保険		97,200 円 × 1 式		97,200	
	管理賠償責任保険		54,690 円 × 1 式		54,690	
	小 計				153,965	92,000
12	報償費	50				
	職員研修講師謝金		50,000 円 × 1 式		50,000	
	小 計				50,000	242,014
13	租税公課	29				
	自動車重量税		8,800 円 × 1 式		8,800	
	収入印紙		20,000 円 × 1 式		20,000	
	小 計				28,800	0
14	負担金	10				
	全少連九州協議会負担金		10,000 円 × 1 式		10,000	
	小 計				10,000	7,500
15	委託費	9,380				
	警備業務		212,000 円 × 1 式		212,000	
	清掃業務		5,717,000 円 × 1 式		5,717,000	
	電気工作物保守		331,000 円 × 1 式		331,000	
	消防設備保守		271,000 円 × 1 式		271,000	
	ゴミ収集		40,000 円 × 1 式		40,000	
	クリーニング		2,238,000 円 × 1 式		2,238,000	
	貯水槽点検		148,000 円 × 1 式		148,000	
	ボイラー点検		178,000 円 × 1 式		178,000	
	パソコン保守		89,000 円 × 1 式		89,000	
	ホームページ保守		156,000 円 × 1 式		156,000	
	建築物等定期点検		0 円 × 1 式		0	
	小 計				9,380,000	8,268,261
16	支払手数料	200				
	簡易水道法定検査料		20,000 円 × 1 式		20,000	
	振込手数料		180,000 円 × 1 式		180,000	
	小 計				200,000	300,937
合 計		27,146			27,144,995	25,805,003

項 目		金額 (単位：千円)	積 算 基 礎		金額 (単位：円)	金額 (単位：円)
	人件費					
	給与手当	36,205	36,204,812 円 × 1 式		36,204,812	33,336,363
	福利厚生費	6,701	6,700,336 円 × 1 式		6,700,336	5,336,233
	租税公課	4,291	4,290,515 円 × 1 式		4,290,515	4,146,669
	退職給付費用					1,295,578
	合 計	47,197			47,195,663	44,114,843

3 施設運営事業費内訳

		計画額		実績額
項 目	金額 (単位：千円)	積 算 基 礎	金額 (単位：円)	金額 (単位：円)
1 利用団体支援事業	585			
① 消耗品費	530			511,810
活動費（クラフト用品、ボール等）		330,000 円 × 1 式	330,000	
キャンプ等関係用品費		100,000 円 × 1 式	100,000	
消毒等薬剤費		100,000 円 × 1 式	100,000	
② 保険料	55			54,690
賠償責任保険		55,000 円 × 1 式	55,000	
小 計			585,000	566,500
2 広報事業	350			
① 旅費交通費	10			6,755
県内外広報活動旅費		10,000 円 × 1 式	10,000	
② 印刷製本費	300			307,725
所報		100,000 円 × 1 式	100,000	
活動プログラム等		50,000 円 × 1 式	50,000	
企業向けパンフレット		30,000 円 × 1 式	30,000	
勉強会合宿のご案内		30,000 円 × 1 式	30,000	
封筒（長3）		30,000 円 × 1 式	30,000	
封筒（角2）		60,000 円 × 1 式	60,000	
③ 通信運搬費	40			2,234
切手類購入		40,000 円 × 1 式	40,000	
④ 広告料	0			10,000
小 計			350,000	326,714
合 計	935		935,000	893,214

令和7年度黒髪少年自然の家保全(維持・補修)実施報告

No.	箇所	価格(円)	業者名	完了年月日
1	キャンプ場アンテナ・SP機器移設工事	95,590		R7.4.3
2	厨房冷凍庫マグネットパッキン補修	48,114		R7.4.9
3	4棟2号室ベッド補強工事	11,000		R7.5.1
4	5棟1号室ベッド柵取付工事	57,200		R7.5.1
5	クラフト棟男子トイレフラッシュバルブ取替工事	41,800		R7.5.18
6	4棟2号室エアコン取替工事	201,300		R7.5.20
7	厨房天井・ダクト塗装工事	99,000		R7.6.23
8	1・2・4棟乗入口舗装工事	330,000		R7.6.30
9	3棟・第一駐車場乗入口舗装工事	451,000		R7.6.30
10	消防設備改修工事	78,100		R7.7.2
11	管理棟前防犯灯取替修繕工事	99,000		R7.7.9
12	プレイホール塗装塗り替え工事	162,800		R7.7.28
13	プレイホール格子取付工事	391,600		R7.7.28
14	リネン庫外灯取替工事	33,000		R7.7.31
15	防火設備電気工事	124,300		R7.8.18
16	プレイホール防球ネット取付	55,000		R7.8.25
17	クラフト室天窓撤去工事	407,000		R7.10.8
18	3棟玄関ガラス割れ替え	14,640		R7.10.22
19	2棟5号室エアコン修繕	13,200		R7.11.30
20	消防設備改修工事 消火器取替	18,700		R7.12.10
21	厨房冷凍庫扉調整	20,900		R7.12.20
22	厨房用ガス炊飯器サーミスタ取替	29,612		R8.1.26
23	フィット12ヶ月点検、オイル交換ほか	31,240		R8.2.9
24	リネン室渡りフロア改修工事	465,135		R8.3.19
25	厨房用ガス炊飯器設置費	176,000		R8.3.24
26	誘導灯改修	127,600		R8.3.25
27	管理電灯動力仮設工事	187,000		R8.3.30
28	男子浴室タイル修繕工事	176,000		R8.3.31
29	プレイホール防球ネット工事	459,800		R8.3.31
30	マンホール蓋修繕工事	23,100		R8.3.31
31	自動火災報知改修工事	40,700		R8.3.31
小 計(指定管理業務に係るもの)		4,469,431		
33	軽トラタイヤ*4、タイミングベルト交換ほか	88,396		R7.6.9
34	軽トラオイル交換、タイヤ*4交換	11,220		R8.2.12
小 計(指定管理業務以外のもの)		99,616		
合 計		4,569,047		

令和7年度 佐賀県黒髪少年自然の家 管理運営業務評価表

評 点 5:十分 4:ほぼ十分 3:どちらともいえない
2:やや不十分 1:不十分

項 目	評 価 の 観 点	目 標	数 値 実 績	実 践 事 項	評 点	評 価 基 準	課 題・改 善 点
1. 少年自然の家の施設の平等の確保							
① 生活弱者への配慮	・生活弱者への配慮等の対応はできたか。	100%	100%	・生活保護家庭等就学困難な児童・生徒に対しては、学校長の申請に基づき施設利用料の免除措置をしている。 ・身体障害者等の手帳、特定疾患(指定難病)医療費受給者証の交付を受けている方は保険証等の提示と申請によって免除している。 ・身体障害者等に対する駐車スペースを管理棟前に確保し、プレイホール及び食堂入口にスロープを設置して車いすでもスムーズに通行できるようにしている。 ・多目的トイレを設置している第4棟については、身体障害者のいる団体に優先的に割り当てた。	5	5…生活保護家庭等就学困難な児童・生徒に対して施設利用料を免除した。身体障害者等に対する駐車スペースを確保している。施設設備などは、身体障害者等に対応できるものとなっている。 4…生活保護家庭等就学困難な児童・生徒に対して施設利用料を免除した。身体障害者等に対する駐車スペースを確保している。 3…生活保護家庭等就学困難な児童・生徒に対して施設利用料を免除した。 2、1…上記3の対応の全部又は一部を行わなかった。	・管理棟(玄関→大研修室への階段、お風呂場)、プレイホールトイレ、クラフト室トイレ及び屋外トイレをバリアフリー化、4棟入り口付近の駐車スペースの確保等、施設・設備の改善整備を図る必要がある。 ・ユニバーサルデザインの考え方で事業内容や活動プログラムを見直し、体験活動の充実を図る。
② 公平な利用計画	・利用申込み及び施設利用の公平性は図られたか。	100%	100%	・受け付け事務にあたっては、県内学校優先期間の令和6年4月1日より6月30日までに申し込みのあった学校について、希望どおりに受け入れることができた。 また、施設、器具、フィールド及び食事、入浴時間等は、調整を行い、アンケートの結果でも特に改善等の意見はなかった。	5	5…受け付け事務については、優先順位等の方針を100%履行した。また、施設、器具、フィールド及び食事、入浴時間等は、100%利用団体との調整を行い不満等の意見はなかった。 4、3…受け付け事務については、優先順位等の方針を100%履行した。また、施設、器具、フィールド及び食事、入浴時間等は、100%利用団体との調整を行い不満等の意見はほとんどなかった。 2、1…上記の対応の全部又は一部を行わなかった。	・今後とも、県内学校を優先するなど優先順位等の方針を100%履行して希望する日に利用できるよう配慮する。また、施設利用に関しては、意見要望に基づいて改善を行っていく。 ・引率の職員や指導者の入浴については臨機応変に対応するよう心がける。
2. 少年自然の家の施設の効用の最大化							
①利用者の意見の反映							
・利用者の意見の把握	・利用者に対して、入所時にアンケート用紙を配布したか。また、その回収はできたか。	100%	100%	・宿泊利用の団体147団体にアンケートをお願いし、回収率は100%であった。	5	・5…アンケートの回収率が100%、4…80%以上、3…50%以上、2…回収率30%以上、1…30%未満	・今後も回収率100%を継続していく。
・利用者意見の反映	・利用者意見や要望等について、速やかに対応できたか。	100%	90%	・利用者からの意見は職員で共有し対応できた。 ・活動プログラム支援の要請には、全て対応し支援した。	3	5…全ての意見・要望に対応した。4…経費面で対応できないものを除き全ての意見・要望に対応した。3…経費面で対応できないものを除き、ほとんどの意見・要望に対応した。2…あまり対応しなかった。1…全く対応しなかった。	・キャンプ場については、キャンプ協会にも相談しながら、キャンプ場の利用促進を図る。 ・今年度は、高圧電気ケーブルの破損による停電が2回あり、宿泊者及び宿泊予定団体に多大な迷惑をかけてしまった。
・利用者満足度	・参加者の反応は、満足いくものであったか。	90%	98%	・ アンケートの結果、98%の団体が「よかった。とてもよかった。」との回答であり、「あまりよくなかった。良くなかった。」と答えた団体は3団体であった。(食事の内容に関して5件)	5	5…アンケートの結果「満足した」と回答したものの比率が90%以上、4…80%以上、3…70%以上、2…50%以上、1…50%未満	・施設・設備では、「良かった、とても良かった」との意見が99%であり、今後も利用者への接客対応等の研修を更に充実させ、継続して全ての人が満足するよう努める。
②主催(提案型)事業							
・参加者目標数の達成	・募集定員を確保することができたか。	100%	65%	・実施した23事業において募集人員に満たないものがあった。募集定員1100人に対し、参加者は712人の64.7%であった。(出前講座は計上していない)	2	5…参加者目標の達成率100%以上、4…85%以上、3…70%以上、2…50%以上、1…50%未満	・提案型事業を23事業実施し、募集人員を下回った事業が20事業あったので、すべての事業で定員を超えるよう更に内容の充実と各家庭の手に届く広報等のあり方を検討する必要がある。また、当日キャンセルを見込んだ募集定員を見積もっているため、より実数に合わせた人数に調整していく。
・参加者満足度	・利用者の反応は、満足いくものであったか。	90%	99%	・有効アンケート回答540人中、99%が「とても楽しかった、楽しかった」との回答であった。参加者のうち6名が「あまり楽しくなかった、楽しくなかった」と回答。	5	5…アンケートの結果「満足した」と回答したものの比率が90%以上、4…80%以上、3…70%以上、2…50%以上、1…50%未満	・参加者の99%が、「とても楽しかった。楽しかった。」と回答した。友だち同士のトラブルや体力的に厳しい子どももいて、生活面の指導や我慢する心を養う必要がある。 ・主催事業の活動内容を工夫したり、既存の野外コースを改善したりするなど、続けて参加したくなる活動に修正していく。
③ 食事の提供							
・安全な食事の提供	・食事提供の前に検食を行い安全の確認を行なったか。	100%	100%	・提供30分前に検食を行ない、特に異常は認められなかった。アレルギーのある児童・生徒等への対応は、食堂に最初に入ってもらうなど、事故がないように注意している。	5	5…検食の実施率100%、4…90%以上、3…80%以上、2…70%以上、1…70%未満	・全ての食事(弁当を含む)の検食を行い、特に異常は認められなかった。今後とも、食堂会議で協議するなど厨房と職員との緊密な連絡を行う。
・食材の地元調達	・可能な限り地元調達を行ったか。	100%	10%	・魚・肉類や加工品を除く、米、野菜等の食材について、可能な限り地元から調達するよう食堂運営委託業者に依頼しているが、現段階では地元産での調達は厳しそうである。	1	5…食材の地元調達率90%以上、4…80%以上、3…70%以上、2…60%以上、1…60%未満	・ 県内からの調達が約10%であるが、地元からの調達に努めるようにお願いする。
・利用者意見の反映	・利用者からの要望等に速やかに対応できたか。	100%	100%	・利用者からの意見・要望については、その都度食堂に改善するよう指示すると共に、厨房との連携を密にし、食堂会議で改善の結果や今後の対応などを検討し、利用者の意見の反映に努めた。	5	5…物理的に対応できないものを除き全ての意見・要望に対応した。4…ほとんどの意見・要望に対応した。3…可能な限り対応した。2…あまり対応しなかった。1…全く対応しなかった。	・食堂会議で厨房と連携を密にし、意見交換をしながら改善に努めているが、今後も利用者の意見に速やかに対応するなどの対策をとる。
・利用者満足度	・利用者の反応は、満足いくものであったか。	90%	96%	・アンケートの結果、食事の内容等では96%の団体が「よかった。とてもよかった。」との回答、食堂職員の対応では97%の利用者から満足したとの回答であった。	5	5…アンケートの結果「満足した」と回答したものの比率が90%以上、4…80%以上、3…70%以上、2…50%以上、1…50%未満	・「量が多かった」「野外炊飯の材料がそろっていなかった」「汁物をもう少し多くついでほしい」「トマトスープは子ども向けしない」との回答が5団体あり。今後とも委託業者と更なる向上を心がけていく。

項 目	評 価 の 観 点	数 値		実 践 事 項	評 価 基 準			課 題・改 善 点
		目 標	実 績		評 点	評 価	基 準	
④ 利用者の増加	・数値目標を達成できたか	100%	80%	・目標延利用者数22,000人に対し、17,555人の利用であり、達成率は79.8%であった。なお、県内利用団体数については、年度目標450団体に対し、423団体であり、達成率は94%であった。また、出前講座では26団体3,040人の参加があった。	2	5	数値目標の達成率100%以上、4…90%以上、3…80%以上、2…70%以上、1…70%未満	・児童・生徒数の減少、学校の業務改善による宿泊を伴う自然体験活動の縮小等で利用者数の減少がみられる。今後も引き続き積極的に広報等に取り組み、利用者増を図っていく。
⑤ 広報活動	・事業計画書のとおり広報を行ったか。	100%	100%	・県内幼稚園・保育園、小・中学校、高校及び福岡県、長崎県を含む大学校等関係団体を訪問し、リーフレット及び所報を配布するなどして、広報活動に努めた。	5	5	事業計画書以上の広報活動を実施した。4…事業計画書のとおり実施した。3…ほとんど事業計画書のとおり実施した。2…あまり実施しなかった。1…ほとんど実施しなかった。	・事業計画に沿った広報活動を行った。さらに、新たな広報先や手段を検討する。
⑥ 誘客活動	・小・中学校、高校、大学を訪問したり、リーフレットの送付などの誘客活動を行ったか。	延400箇所	227箇所	・幼稚園・保育園、小・中学校、高校、県内・近県大学並びに教育委員会等227箇所を訪問し、利用案内の文書、リーフレット、所報等を送付し、誘客活動に努めた。また、周辺スポーツ施設を紹介するリーフレットを改訂し、スポーツ団体等を誘致した。	4	5	訪問等の箇所300箇所以上、4…200箇所以上、3…100箇所以上、2…100箇所未満、1…未実施	・前年度並みに訪問活動を行い、所報や体験プログラム等の案内チラシ・ポスターの種類を増やして、郵送等により誘客活動に努めたが、利用者の大幅増加には至っていない。
3、管理経費の縮減								
・収入の確保	・収入目標の達成に努めたか。	100%	106%	・収入目標額5,916,950円に対して、収入額6,305,262円で、目標に対して388,312円の増収であった。	5	5	数値目標の達成率100%以上、4…90%以上、3…80%以上、2…70%以上、1…70%未満	・収入目標額に対し、実績は目標額の106%であった。引き続き、誘客活動を促進し、収入の確保を目指す。
・維持管理費の削減	・維持管理費の縮減に努めたか。	良	良	・施設の簡易の修理はもとより、樹木の伐木や剪定、屋外の清掃及び除草を職員で行ったり、必要箇所以外の消灯や節水型浴室シャワーヘッドの取替、トイレ・洗面台の節水設定等を行ったりすることで、維持管理費の削減に努めている。	4	5	4…縮減できた。3、2…あまりできなかった。1…全くできなかった。	・利用者へのサービス低下を招かないよう考慮しながら、今後も引き続き、維持管理の節減に努めていく。
4. 施設の管理								
① 職員の指導育成・研修体制	・職員研修は、計画のとおり実施したか。	年6種	年6種	・普通救命講習、避難訓練(年2回実施)など防火・救命研修を3回実施した。職員連絡会の際にも服務規律及びハラスメント防止を徹底するよう共通理解を図った。	5	5	指導員対象専門研修の受講、職場研修の実施 5…全部できた(年6種類以上)、4…できた(5種類以上)、3…3分の2程度できた(4種類以上)、2…半数程度しかできなかった(3種類以上)、1…できなかった(3種類未満)	・今後も他機関が実施する専門研修などに積極的に参加させるとともに、職場内での職員研修も実施し、職員の資質向上を図っていく。
② 職員の地元雇用	・職員等の雇用にあたっては、県内在住者を優先した雇用に努めたか。	100%	100%	・全ての職員が県内在住である。	5	5	100%県内在住、4…90%以上、3…80%以上、2…70%以上、1…70%未満	・今後も引き続き、地元雇用を行っていく。
③ 県内発注	・清掃等の業務委託や物品調達等の際には、県内業者への発注に努めたか。	100%	100%	・全ての委託、物品調達などは県内業者に発注した。	5	5	100%県内業者、4…90%以上、3…80%以上、2…70%以上、1…70%未満	・引き続き、委託・物品調達などは、県内業者への発注に努める。
④ 安全管理対策・体制								
・施設設備の安全点検	・施設・設備の点検を定期的に実施し、安全の確保に努めたか。	延24回	延28回	・委託業者による点検は電気工作物点検年7回、防火設備点検年2回、ボイラー点検年1回、貯水槽清掃を年2回実施した。 ・担当職員による遊具・フィールド点検を年12回、全指導員での点検を年4回実施した。	5	5	年12回を超えて実施、4…12回、3…6回以上、2…3回以上、1…3回未満	・定期的に点検し、安全確保に努めている。 ・宿舍整理に回るときや、事業の事前踏査などで、施設の点検可能な設備器具については安全点検を実施している。
・事前打合せの実施	・利用団体の責任者に対し、施設利用の方法や注意事項について十分な説明を行ったか。	100%	100%	・宿泊する団体については、すべての団体について、事前の打ち合わせを十分に行っている(対面及び電話)。また、日帰り利用の団体にも活動計画を確認するなど丁寧な対応をしている。	5	5	100%実施、4…80%以上、3…60%以上、2…40%以上、1…40%未満	・来所での打ち合わせができない(県外等)団体については、電話で説明する際に施設の特性を含め十分に説明していくことが大切である。
・活動プログラムの指導	・安全かつ効率的な活動ができるよう事前踏査を行うなど適切な助言・指導をしたか。	100%	100%	・全ての団体の指導者に対し、入所打ち合わせの際に活動プログラムの説明等を実施し、安全確保に努めた。	5	5	100%実施、4…90%以上、3…80%以上、2…70%以上、1…70%未満	・全ての団体の指導者に対し、入所打ち合わせの際に活動プログラムの指導等を実施していく。
・活動当日の指導	・入所時にオリエンテーションを実施し、施設の利用案内、注意事項等を記載したチラシを配布し説明を行うとともに、活動の前には機器操作等の説明は、十分に行ったか。	100%	100%	・入所時にオリエンテーションを実施し、施設の利用案内、注意事項等を記載したチラシを配布し説明を行うとともに、活動の前には十分に説明を行うなど安全確保に努めた。	5	5	100%実施、4…90%以上、3…80%以上、2…70%以上、1…70%未満	・入所時のオリエンテーションの際に、施設の利用案内、注意事項等を記載したチラシを配布し説明を行うとともに、活動の前には十分に説明を行うなど安全確保に努めていく。
⑤ 事故及び災害時の対応体制								
・消防防災訓練等の実施	・消防防災訓練を年1回以上実施したか。	2回	2回	・9月及び3月の2回実施した。	5	5	年2回以上実施、4…年1回実施、1…未実施	・年2回、消防訓練を実施しており、緊急事態に備え、今後とも定期的に訓練を実施していく。
・防火組織及び防災組織の編成	・防火組織及び防災組織を編成するなどの非常事態への対応は万全か。	有	有	・消防計画に基づき、防火及び防災組織を編成し、定期的に消防訓練を実施するなど非常事態へ備えている。	5	5	編成している。1…編成していない。	・消防計画に基づき、防火及び防災組織を編成し、定期的に消防訓練を実施するなど非常事態へ備える。
・救命・救急講習の実施	・救命講習会を実施し、すべての職員が救命技能を有するものとしての認定書の交付を受けたか。	100%	100%	・武雄消防署から救急救命士に来てもらい、全ての職員が普通救命講習会を受講し、救命技能を有するものとしての認定書の交付を受けた。	5	5	認定書交付者100%、4…90%以上、3…80%以上、2…70%以上、1…70%未満	・全ての職員が救命技能を有するものとしての認定書の交付を受けていく。

項 目		評 価 の 観 点		数 値		実 践 事 項	評 価 基 準		課 題 ・ 改 善 点
				目 標	実 績		評 点		
・気象情報等の伝達		・利用団体に気象情報や熱中症等の情報を的確に伝えたか。		100%	100%	・気象情報や熱中症等の情報は、インターネット等により収集し指導者に的確に伝え注意を喚起した。また、利用団体に熱中症警報器を貸出し注意喚起を図った。	5	5…情報を把握し的確に伝えている。4…ほとんど伝えている。3…ある程度伝えている。2…あまり伝えていない。1…全く伝えていない。	・気象情報や熱中症等の情報を、インターネット等により収集し指導者に的確に伝え注意を喚起していく。
・職員研修		・安全管理マニュアル等を整備し、職員への周知を図ったか。		1回	1回	・危機管理マニュアル等安全に関するマニュアルを作成し、全職員に研修等を行い周知した。	5	5…規定を作成するとともに、年1回以上の研修を実施した。3…規定は作成している。1…規定なし。研修を実施していない。	・安全管理マニュアルを作成し、全職員に研修等を行い周知していく。
⑥ 苦情等に対する対応		・利用者等からの苦情等に対応するためのマニュアル等体制は整備されているか。		1回	1回	・苦情等に対応する対応マニュアルを作成するとともに、所長を班長とする苦情処理対策班を設置し早期解決を目指した。	5	5…規定を作成するとともに、年1回以上の研修を実施した。3…規定は作成している。1…規定なし。研修を実施していない。	・苦情等に対応するためのマニュアルを作成するなど対策に努める。
⑦ 個人情報の保護		・個人情報保護に関する規定を制定するとともに職員に対する研修を実施したか。		1回	1回	・個人情報保護の関する規程を制定するとともに、職員に対する研修を実施し個人情報保護に努めた。	5	5…規定を作成するとともに、年1回以上の研修を実施した。3…規定は作成している。1…規定なし。研修を実施していない。	・個人情報保護に関する規程を制定するとともに、職員に対する研修を実施し個人情報保護に努める。
総 合 評 価	実 践 事 項							課 題 ・ 改 善 点	
	・管理運営の基本方針に基づいた適切な運営ができたか。	○令和7年度黒髪少年自然の家の管理運営にあたっては、「自然との出会い」「友との出会い」「我慢との出会い」の3つの出会いをテーマに、利用者のニーズを尊重し、親しまれ、喜んでいただける施設を目指し管理運営業務を実施した。その評価は、評価項目30項目のうち5評価は24項目、4評価は2項目、3評価は1項目、2評価は2項目、1評価は1項目で平均4.53点であり、概ね良好な管理運営ができたと考えるものの、一昨年度と比較すると若干下がっている。 ・生活保護家庭等や就学困難な児童・生徒への全額免除、障害者等に対する駐車スペースの優先確保。多目的トイレ(第4宿泊棟)の優先貸出。 ・車椅子利用者に対する設備等が十分でなく、段差解消のためのスロープ等簡易なものは対応したが、抜本的な解決には至らなかった。 ・利用者からのアンケート回収率は、100%であった。 ・99%の団体が「とてもよかった」「よかった」との意見であった。 ・事業については、黒髪山系の恵まれた自然環境を生かし、23事業を実施し、定員に対して67%の参加、98%から楽しかったとの意見。 ・食事については、全ての食事の安全を確認し、内容等では96%、職員の対応では97%の利用者から満足したとの意見。 ・利用者については、延べ利用者数が目標数22,000人に対して79.8%の17,555人であった。 ・収入については、目標額5,916,950円の107%の6,305,262円。可能な限り職員による修理、エアコン利用は、平等性を保ちながら、努力を継続。 ・安全管理については、定期点検を月1回行い、気象情報、熱中症等の情報は利用団体に速やかに伝えるなど利用者の安全に努めた。 ・事故及び災害への対応は、危機管理マニュアル等を整備し、年2回の消防訓練と、全職員が普通救命の認定書の交付を受けている。 ・苦情等への対応は、対応マニュアルを作成し、所長を班長とする苦情処理対策班を設置し対策を講じている。 ・情報セキュリティマニュアル及び個人情報・情報セキュリティハンドブックを作成し、職員への研修を実施した。					○評価項目のうち、「参加者目標数の達成」が「2」評価であるため、改善を要する。 利用者の増加に関しては、今後ともプログラムや活動内容を充実させ、広報活動を積極的に実施していく。また、その他の評価についても利用者の意見を取り入れるなど、これまで以上に利用者に親しまれ喜んでいただける施設運営を目指すとともに、リピーターの確保、スポーツ団体や中、高校の部活動の合宿の誘致など利用者増に努める必要がある。そのため、周辺の運動施設を紹介し利用料の負担するなどの工夫しているところである。 ①身体障害者、特に車いす利用者が利用しやすいように、段差解消のためのスロープの設置や多目的トイレの増設などバリアフリー化への取組が必要である。 ②アンケートの回収率は、利用団体の100%であった。アンケートの重要性を利用団体に十分に説明するとともに、ご指摘があったことについては、迅速な対応を心がけていく。 ③主催事業提案型事業を24事業実施し、募集人員を下回った事業が20事業あったので、すべての事業で定員を超えるよう内容の充実と広報等に努める必要がある。また、より実数に近付けた目標設定にする。 ④維持管理費の縮減については、利用者へのサービスを低下させないよう配慮しながら実施することが重要である(特に夏季における熱中症対策)。節水、節電等については、利用者へ対しても協力を呼びかける等引き続き努力する。 ⑤事前打ち合わせについて、安全かつ効率的に研修を実施するためには研修についての事前の打ち合わせと指導者自らが事前にプログラムを体験することの重要性を説明し、実施率の向上を目指す必要がある。学校等の都合により必要であれば指導員が訪問し、特性を含め丁寧な説明と充実した活動計画の作成を心がけていく。 ⑥食材については、可能な限り地元から調達するよう委託業者との間で取り決めており、さらに努力するようにお願いする。 ⑦今年度は、利用者が目標数を大きく下回った。学校に対しては学校行事だけに限らず、サークル活動、親子行事等による利用を強力に推奨するとともに、スポーツクラブ、中・高の部活動への誘客活動を推進し、利用促進に努めていく。 ⑧教育効果の高いプログラム開発や利用団体に対する質の高い指導・支援を行うため、職員のスキルを高めることが重要である。国立青少年自然の家等でのNEAL養成研修に職員を積極的に参加させる。また、接遇及び個人情報保護や危機管理に関する研修等を行い、職員の能力の向上を図る。さらに、消防訓練の実施、普通救命講習の受講等により不慮の事故への備えが必要である。		
評 価 委 員 評 価	●令和7年度 管理運営業務評価委員会の結果(令和7年12月2日(月)・令和8年2月12日(水)開催) 総合評価(委員3名:評価点 5、4、5) 【坂本委員】 ①何といても、黒髪の自然を生かしたプログラムと思う。 ②トレッキング、ハイキング、山菜摘み、蛸も見れる。 ③「空飛ぶバルーン体験」は、毎年恒例になってきており、なかなか体験できないことなので好評なのがわかります。 ④防災キャンプは今後も続けてほしいですし、対象者を子供だけでなく地域の大人団体などに呼びかけてみるのもいいと思います。 ⑤これからは、学校、スポーツ団体から広げて、大人の団体・趣味のグループなどに広報するなどの工夫が必要なのかもしれません。 ⑥野鳥を観察する会、山登り、ボルダリングなど、やはりHPやインスタグラムなどの充実ではないかと思います。 【山崎委員】 ①コロナ感染対応もほとんど解け、かつての利用ができるようになってはきた。しかし、利用者の考えが変化し利用者数が戻っていない。 ②県内外の施設とのネットワークを一層、拡大しながら運営していただきたい。 ③職員一同様が「働きがいのある職場づくり」に望んでいただきたい。 【青木委員】 ①社会のニーズを踏まえた改革を。 ②佐賀県では児童・生徒数の減少に伴い、学校数も年々減っている。そのような状況の中、このままの状態では利用者数を増やすことは難しい。利用対象者を県外に広げる。また年齢層を児童生徒から一般・高齢者まで対象を広げる必要がある。『少年自然の家』の『少年』を削除してはどうかと思う。 ③キャンプなどアウトドアスポーツの需要が増えてきている今、今までの施設の利用形態を大幅に変えてはいかかかと思う。テント泊ができる場所・車中泊ができる場所などできるのではないかと思う。既存の利用形態を見直すチャンスだと思う。 ④主催事業(提案型)も学校関係はともかく、他の年齢層が参加できる事業を考えてほしい。そしてその年齢層に届く後方のやり方を。						■利用者の年齢層の拡大 ・リニューアルした施設の様子や魅力あるプログラム、黒髪山系の自然の美しさなどをSNS等での情報発信したり、少年スポーツ団体への広報、中学校、高等学校、大学の部活動の合宿等の誘致(特に長崎県北部や福岡県西部の諸学校へは積極的に働きかけたい)、企業研修の誘致などを行ったりすることで、利用者増及び利用年齢層の拡大につなげる。 ■ユニバーサルデザインの考えを取り入れたプログラムの開発 ・施設が完全なバリアフリーではないことや施設設置場所の地形的要素などもあって、車椅子利用者への十分なケアがなされていないが、可能な範囲でユニバーサルデザインの考えを取り入れた体験プログラムを開発していく。 ■社会のニーズを踏まえたプログラムの開発。 ・キャンプなどアウトドアスポーツの需要が増えてきているので、キャンプ協会等に相談しながら購入した新テント(20張)を使ったキャンプ泊の実施促進を図るとともに、SNS等でも積極的に広報活動を行っていく。 ■地域等の活動団体や自治体との連携プログラムの開発 ・地域等のボランティアや活動団体、または自治体と連携したプログラムを開発していく。 ■安全管理マニュアルの更新(食物アレルギー、異常気象・・・)と危機管理意識の向上 ・年度終わりに年間の対応を振り返り、マニュアルの見直しを行い、年度当初の職員会議において職員で確認する。 ・危機管理意識を高く持ち、日々の安全点検、気象情報や熱中症等の情報提供などを迅速かつ適切に行い、危機回避を確実に行う。		